学校評議員会議記録

開催日時	平成27年 2月23日(月) 10時00分～12時00分		
会 場	本校会議室		
出席者数	学校評議員 4名	学校 3名	
出席者氏名	森脇 久幸氏 (PTA会長) 阿部 哲実氏 (サライズ`30`ト施設長) 高田 巧氏 (高田メンテナンス 代表取締役) 小中美喜夫氏 (本校卒業生保護者)	校長 安戸 岳 夫 教 頭 仲 條 正 輝 事務長 中 村 勝 彦	

1 学校長挨拶

2 授業参観

3 説明事項

(1) 平成26年度学校評価について

(2) 平成26年度学校関係者評価について

※教頭より平成26年度学校評価と学校関係者評価について説明

(3) 新しい学校教育目標について

※校長より新しい学校教育目標について説明

4 質疑応答

・学校評価について

(1) 危機管理について

(2) 医療的ケアについて

(3) PTA活動の活性化について

(森脇評議員) メールを受け取る側ではありますが、早めの対応が役に立っていると思います。医療的ケアについては、携わっていない職員も研修することは大切だと思います。また、高田評議員の意見にもあるように、PTA活動は、地域を巻き込んだ事業展開をしていくことが大切であると思います。

(高田評議員) PTAの活動は、普段の活動の延長ではなかなか難しい面がある。地域を意識して展開していくと、ステップアップが見込めるのではないのでしょうか。

(4) 研修活動の充実について

(高田評議員) 研修について、職員が意欲はあるがなかなか研修の機会がないとありましたが、この地域で研修の機会がないのであれば、予算を付けて職員を派遣するとよいと思うのですが。

(教頭) 研修の機会がないわけではないです。近隣の地域から研修の案内は届きます。しかし、先生方一人一人のニーズに合った研修会があるかといえば、それはないかもしれません。しかし、自分もそうですが研修というのは、一度聞いただけではなかなか

か身につけません。何度も聞いて気付くこと、学ぶことがたくさんあります。そのように考えると決して研修の機会がないわけではありません。ただし、肢体不自由に特化した研修会については、あまりないかと思います。ただ、個人的に研修会に行ってきた職員が、職員向けの通信で情報提供をする場合もあります。通信を読むことだけでも、研修につながるきっかけになると考えると研修の機会はどこにでもあるかと思えます。

(校長) 札幌である研修会に職員を派遣していくことは、地域柄、1人当たりの旅費がかかりすぎて難しい部分があります。ただし、発達障害についての研修会はこの地域でもたくさん開催され、より専門性の高い研修が行われています。話は変わりますが、医療的ケアの研修については、昔は誰でも参加することができました。今は昔と違って、旅費のことや研修しても実際に機会がなければ必要がないことから、医療的ケアに携わる者しか行くことができません。ちなみに、本校は今年度研修に行った職員はいません。

(高田評議員) 費用対効果もあるのでしょね。ただし、体験する、目で見ることによって分かることはとても大切です。研修したことは、本当に自分で勉強したことになります。また、職員が自費で研修したことを、情報提供することは良いことだと思います。

(校長) 全道の肢体不自由の特別支援学校では、関東の肢体不自由の特別支援学校に各校から職員を派遣して視察研修を行う先進校ツアーを3年ぐらい続けて行っています。前回までは、東京の肢体不自由の特別支援学校で取り入れている授業者支援会議について学びました。今では、教員が研究授業した後の反省会は、授業者支援会議が定着するまでになりました。今年度は本校が担当になり、ICTの研修をテーマに研修を深めました。本校からも職員を派遣し研修のまとめについて発表し、他の職員への還元も済ませています。

(高田評議員) 先程もipadを使用して、指導していた先生もいましたね。

(校長) 来年度、道教委からipadの購入の応募の知らせがあり、応募したところ10台購入できることになりました。今は、私物を使用して指導している方もいるので、少し職員も負担も減るかと思えます。今まではipadの本体を購入することはできませんでしたが、アプリを購入できる予算はありませんでした。今回からは、ルーターとipad本体を購入できる予算が付きました。

(高田評議員) ソフトを購入できる予算も道が負担してくれるということですか。

(校長) その通りです。今までは手続きが煩雑でしたが、これからは購入の方法についても指示が来ると思えます。今は有料のアプリ一つを購入すると、同時に5台まで同じアプリを入れることが可能です。一つのアプリで6,000円くらいになるものもあります。これからは、管理の仕方についてもしっかり考えていかねばならないと思えます。

(小中評議員) 授業も以前とはずいぶん変わってきました。いろいろ変わってきたことは良いことだと思います。

(校長) ゲーム世代の子どもが多いせいか、板書を見るより、ipadなどの画面を見た方が集中できる子どもも多いので、教育効果はあるかと思えます。

(森脇評議員) 今は、コミュニケーション向けのアプリもたくさん出ている。いずれ家

庭でも使えるアプリも出てくるので、その効果が楽しみである。

(校長) アプリも子ども一人一人にカスタマイズすると教育効果も上がり、発展すると思います。

(5) 時間外勤務縮減について

(小中評議員) 時間外勤務について、学校としてはどう捉えていますか。

(教頭) 今年は、年度の始めに全体研修会を行い職員から意見を集めて、金曜日の定時退勤時間を定めたり、教頭の方から早い時間に帰ることを促したりしていました。一昨年よりは、一定の効果はありましたが、まだ一部の職員で時間外勤務が常態化している方がいます。

(校長) 今まで時間外勤務はありましたが、それは適切ではありません。頻繁に時間外勤務を繰り返すことは、体調にも響きます。体調が悪くなることは、即ち子どもの指導にも影響をすることになります。教頭が話したとおり、一部は改善ができています。ただし、昔と違って、個人情報や家庭に持ち出せなくなっています。だから、学校でなくてはならない部分はあります。評価作成の時期はある程度仕方ありませんが、一年間続くことは適切ではありません。また、遅く残ることはそれだけコストがかかることにもつながります。

(阿部評議員) 時間外手当発生のシステムはどのようになっていますか。

(校長) 教員は元々特別手当が入っているため、時間外勤務をしても元々手当が含まれているため、教育職は手当が発生しません。なので、職員は分かって残って仕事をしています。

(高田評議員) 時間外勤務縮減は、基本的には難しいです。個人の能力もあるし、ずっと抱える問題だと思います。ゼロにはならないのではないのでしょうか。

(校長) すごく難しい問題だと思います。ただし、時間外勤務を縮減すると、いろいろところでコストが抑えられ、結果として子どもの教材代とかに回せると考えます。

(6) 新しい学校教育目標について

(小中評議員) 今回、新しい目標に「地域」という言葉が入っているが、PTA活動を整え、もう一つ上の段階に進んでいくのかなと感じた。職場実習の取組もすごく評価している。

(高田評議員) これからは地域にかかっていると思います。これから地域に住む者の反応が問われてくるのであれば、難しいと思います。しかし、呼人地区は他の地域と違いやり方次第で上手くいくのではないのでしょうか。

(校長) 呼人地区も居住地も子どもの地域と考えています。問題は、今は居住地の地域で暮らすことが当たり前ですが、地域の方と一緒に本校の子ども達を何とかしていくことが良いと思っています。

(高田評議員) グループホームと一緒にですね。

(阿部評議員) その通りです。今は、グループホームだけではなく、グループホームのある地域の支援も必要です。

(4) 研修活動の充実について

(小中評議員) 肢体不自由の研修会は少ないと聞きましたが、自閉症の研修会は多くないのですか。

(校長) この地域は多くあります。今はくらしネットオホーツクの松井さんという方が中心になって行っています。また、医療系、福祉系でもそれぞれいろいろあります。

(小中評議員) 社会にでで困るのは、自閉症の子ども達です。しかし、最近、受け入れる施設側で自閉症の理解がされていないことを知り、非常に驚きました。

(校長) 今は移行支援計画の作成もしています。また、自立支援法も出て、自閉症の方の理解も進んでいると思いますが。

(小中評議員) 発達障害でも自閉傾向の強い子どもはなかなか理解されていない。網走養護学校はきちんと理解してもらっています。

(校長) 学校からも情報発信していかなければならないです。オホーツク管内の中の小中学校へも情報提供をこれからもしていきたいと考えています。

5 次年度の学校評議員の委嘱について

※教頭より委嘱の依頼と次年度の学校評議員会議について連絡。

6 校長から

(校長) お忙しい中、一年間、学校評議員の皆様には、お世話になりました。ありがとうございました。評議員の方の御意見は大変参考になります。来年度もまたよろしくお願いいたします。